

Title	英文論文執筆のための講習会2010 ( 5月22日 三田キャンパス北館大会議室)
Sub Title	The workshop of writing research papers in English for young researchers
Author	柴田, みどり (Shibata, Midori)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.13, (2010. 9) ,p.4- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000013-0041">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000013-0041</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 英文論文執筆のための講習会 2010

### The Workshop of Writing Research Papers in English for Young Researchers

(5月22日 三田キャンパス北館大会議室)

2010年5月22日に、「英文論文執筆のための講習会 2010」が三田キャンパス北館大会議室において開催された。当日は慶應義塾のみならず他大学の大学院生や若手研究者を中心に多数の参加者があり、まさに、英文論文執筆に対する意識の高さを反映したものであった。まずはじめに、講師を担当された小嶋祥三先生から英文論文の重要性について解説があった。その主旨は、まず英文論文を執筆することによって世界中の多くの研究者に成果を公表できること、さらに同じ研究分野の学究達と知識の交換や共有をすることによって、その研究領域の発展に多少でも貢献できるということであった。

英文論文の重要性を踏まえたうえで、引き続き論文執筆から投稿、アクセプトまでの流れについて具体例を用いて解説があった。さらに、文献の検索、執筆、英文校閲といった投稿前の流れから、投稿後の reviewer とのやり取りに至るまで大変親切な説明が添えられていた。特に、論文執筆準備における関連文献の検索方法や、雑誌の Impact Factor (IF)、各論文の引用度数の検索方法については、会場で直接 PubMed や Web of Science にアクセスするなど実践的な内容であった。また、投稿後の流れについては一事例として、先生が実際に提出された Response Paper を配布し、一流ジャーナルにおける reviewer とのやり取りからアクセプトに至る流れを詳細に述べられた。

小嶋先生は、とりわけ研究を行う上での英文論文を持つことの重要性、被引用数の高い、良い論文を執筆することの重要性を強

調された。また日常の研究生活の中で英語で論文を書くことを習慣づけていく意識が大切であること、それを研究をする上での基本的姿勢として維持し続けることが肝要であると話された。

講習終了後、多数の参加者から英文投稿に関する種々の質問が出され、終了時間を過ぎても活発な質疑応答が行われた。経験の乏しいことから、ことさら英文論文執筆をハードルの高いものと捉えがちな大学院生や若手研究者の背中を後押ししてくれるような内容であった。

(柴田みどり)

The Workshop of Writing Research Papers in English for Young Researchers was held on May 22nd 2010. Professor Shozo Kojima specifically explained how to write effective papers in English.



## 脳の講習会～基礎知識～

### Seminar Series on Brain Science

(7月20日—8月6日 三田キャンパス各会議室)

今年度も脳の講習会を7月20日から8月6日まで計8回実施し、特に今回はこれまで脳について学ぶことがなかった者を対象とした。認知神経科学の立場から、脳についての基本的な事実、視覚・聴覚神経系、運動・行為、視覚・聴覚認知、記憶、情動・動機づけ、言語、前頭葉・統合機能について紹介した。前前年度は外部の研究者に話題を提供してもらい、そのビデオ記録も参考にしつつ、前年度はGCOE内部の研究者が分担して脳についての知識を紹介した。それぞれ素晴らしい講習会であったが、話題提供者が多かったこともあり、レベルの均一性や統一という点で問題があったかもしれない。今回は担当の小嶋一人で行った。

基礎知識と銘打ったこともあり、中高生からご年配まで幅広い年齢の方々の参加があった。夏休みに入っていたので、参加者は50名を超えることが多かった。会では多くの質問があり、午後3時から2時間の予定が30分ほど延長されることがしばしばあった。無論詳しく話すことができなかった領域もあるが、8回の日程で一通りの知識は紹介したつもりである。教科書的なことだけで終わるのではなく、新しい研究の動向なども紹介した。それゆえ、内容が部分的

に初心者向きではなくなったところがあったかもしれない。また、自分が現在考えていることも話したので、その点も問題なしとしない。しかし、終了後に「面白かった」、「また、やってほしい」という声をいただき、満足感をもって終えることができた。秋学期での開催希望もあり、可能なら実施することを考慮したい。GCOEも来年で終了する。「まとめ」的な講習会を開ければと思っている。

最後になりましたが、事務局はじめ皆さんに会場や資料の準備にご努力いただいた。この場を借りて、お礼申し上げます。

(小嶋祥三)

This year's Seminar Series on Brain Science was organized with a specific intent to provide an introduction to the basic concepts of neuroscience. In the eight classes between 20th July and 6th August a wide range of topics from the visual and auditory nervous systems to complex mechanisms such as language and motivation was covered.